



診察室

## ざくばらん



イラスト・野畑桃花

# なによりも

# 新治療法を

## アルツハイマー病の早期診断

政府会議は、認知症対策に予防を重視した大綱素案を示した。予防も大切だが、治療法の開発にもっとお金を使えないものか。

ふと思いついた。あのノーベル賞の田中さんとグループのことだ。血液を5ccくらい採るだけでアルツハイマー病の早期診断ができる検査法を開発したという。だが、あれからだいぶ経った。ワッシーは、その検査法がいつ実用化されるようになるか、気が気でないのである。もしもその田中式検査法が普及し、健康診断などに使われるようになったら。タイヘンなことになりはしないかと心配でならないのである。

認知症の診断は簡単ではない。従

来のアルツハイマー病の診断法は、脳内のアミロイドβの蓄積をPET（陽電子断層撮影法）や脳脊髄液検査で確認する方法だった。PETが高額であることや髄液検査には痛みや合併症の恐れもあって普及していない。少量の血液を採るだけで、アミロイドβを検出できれば、アルツハイマー病の診断が容易になる。さらには、今は正常だが、将来はアルツハイマー病を発症するかもしれないことまで分かるようになる。アルツハイマー病というのは、アミロイドβが脳に蓄積し始めてから20年以上経って、認知症の症状が始めるものだ。

だから、もし新しい検査法が普及したら、発病前からいざというときの準備ができるというメリットはある。だが、新検査法の精度がどれほどのものか？ま、それが、低くても70%くらいの確率で発病の予測ができるという。でも、それだけで、何年後に発病し、どういう経過をたどるかまでは分からない。

検査では陽性だ。アルツハイマー病になるかもしれない。で、それからをどうしたらよいのか？あなたに、治療法はなくても検査を受けるだろうか？

（石黒修三 いしぐろクリニック  
・脳神経外科専門医、金沢市在住、  
射水市出身）